

第32回「地域の会」定例会資料

前回(1/12)以降の動き

<公表関係>

不適合事象関係

【区分】

- ・なし

【区分】

- ・なし

【区分】

- ・ 1月16日 定期検査中の6号機における制御棒案内管からの溶接棒の回収について
- ・ 1月19日 6号機タービン建屋（非管理区域）でのけが人の発生について
- ・ 1月20日 1・2号機放水口サンプリング建屋（非管理区域）でのけが人の発生について
- ・ 1月31日 4号機原子炉再循環ポンプ（A）軸封部の監視強化について

【その他】

- ・なし

【不適合事象の続報・調査結果等】

- ・なし

定期検査関係

- ・なし

・

その他発電所に係る情報

- ・ 1月20日 当社社長の年始ご挨拶について
- ・ 1月25日 当社原子力プラントにおける制御棒の使用状況ならびに動作確認状況の経済産業省原子力安全・保安院への報告について

<参考>

当社原子力発電所の公表基準（平成15年11月策定）における不適合事象の公表区分について

区分	法律に基づく報告事象等の重要な事象
区分	運転保守管理上重要な事象
区分	運転保守管理情報の内、信頼性を確保する観点からすみやかに詳細を公表する事象
その他	上記以外の不適合事象

不適合事象関係【区分】

- 1月16日 定期検査中の6号機における制御棒案内管からの溶接棒の回収について
当所6号機は、平成17年12月10日から第7回定期検査中ですが、制御棒案内管内部の点検を行っていたところ、1月11日に1つの案内管底部に異物らしき物を発見したため、回収作業を実施しておりましたが、1月13日、回収した異物らしき物はステンレス製の溶接棒（長さ：約485mm、直径：約2mm）であることを確認いたしました。運転開始以来、原子炉内に混入する可能性のある作業では、今回回収した溶接棒と同径のものは使用した実績がないことから、建設工事の際に混入したものと推定しております。なお、制御棒案内管の内部は水の流れがほとんどなく、運転中も溶接棒は案内管底部に留まることから、原子炉の安全性に影響を与えるものではありません。
- 1月19日 6号機タービン建屋（非管理区域）でのけが人の発生について
1月18日午前10時15分頃、定期検査中の6号機タービン建屋地下1階熱交換器エリア（非管理区域）において、点検作業用の足場を組み立てていた作業員が、使用していた工具（スパナ）を上唇にぶつけて切り傷を負ったため、応急処置を行った後、業務車両にて病院へ搬送いたしました。診察の結果、鼻唇部挫創と診断されております。
- 1月20日 1・2号機放水口サンプリング建屋（非管理区域）でのけが人の発生について
1月19日午前11時10分頃、1・2号機放水口サンプリング建屋（非管理区域）において、サンプリングラック（試料採取装置）の架台の解体作業をしていた作業員が、使用していた掘削機の先端を右足の指間に接触させたため、作業終了後に病院へ向かいました。診察の結果、右足の指間部の挫創と診断されております。
- 1月31日 4号機原子炉再循環ポンプ（A）軸封部の監視強化について
当所4号機は、定格熱出力一定運転中ですが、1月17日より、原子炉再循環ポンプ（A）の第2段軸封部（メカニカルシール）の圧力にわずかな上昇傾向がみられ、その後も圧力の上昇傾向は緩やかに継続していることから、1月30日より関連パラメータの確認頻度を増やし、監視を強化することといたしました。なお、軸封部は2段構成となっており、本事象では第1段軸封部に何らかの不具合が生じているものと推定しておりますが、当該ポンプ自体のシール機能は維持されていることから、直ちに当該ポンプの運転に影響を与える状態ではありません。

その他発電所に係る情報

- ・ 1月20日 当社社長の年始ご挨拶について

当社社長勝俣恒久が、平成18年1月23日(月)に新潟県泉田知事、柏崎市会田市長、刈羽村品田村長へ年始ご挨拶にお伺いしますので、お知らせいたします。

- ・ 1月25日 当社原子力プラントにおける制御棒の使用状況ならびに動作確認状況の経済産業省原子力安全・保安院への報告について

当社・福島第一原子力発電所6号機は、平成17年12月21日より第19回定期検査を実施しておりますが、平成18年1月9日、制御棒の動作確認の準備作業において、制御棒1本の表面にひびらしきものを確認したことから、同型の制御棒(全17本)について外観点検を行った結果、合計9本の制御棒のシース部およびタイロッド部にひびが認められ、そのうち1本の制御棒に欠損部を含む破損があることを確認いたしました。本事象による外部への放射能の影響はありません。

本事象につきましては、1月19日、経済産業省原子力安全・保安院より、ひびおよび破損に関する調査を実施し、その結果を報告するよう指示文書を受領いたしました。また、今回ひび等が確認された制御棒と同型の制御棒(ハフニウム板型制御棒)について、当社原子力プラントにおける使用状況や健全性の確認を実施するよう指示文書を受領いたしました。

(平成18年1月10日、11日、18日、19日お知らせ済み)

当社においては、今回ひび等が確認された制御棒と同型のハフニウム板型制御棒を使用しているプラントは計13基(計225本)ありますが、そのうち、現在運転中のプラント(計8基)の同型制御棒(計153本)について、原子力安全・保安院の指示に基づき動作確認を実施し、1月24日までに、いずれの制御棒についても全挿入位置まで正常に動作することを確認いたしました。

このため、本日、当社原子力プラントにおける同型制御棒の使用状況、ならびに運転中のプラントにおける同型制御棒の動作確認結果について、良好である旨同院に報告いたしました。

今後は、停止中のプラントにおける同型制御棒の健全性確認を計画的に実施し、その結果を取りまとめるとともに、福島第一原子力発電所6号機の制御棒のひびおよび破損についても、指示文書に基づいて調査を行い、同院に報告いたします。

以上